

# 東石松先人録

## 平岡虎峰（70歳）

大正4年（1915年）10月30日生　昭和60年（1985年）1月17日没

昭和9年3月、県立大分中学校を卒業した後、曹洞宗永平寺僧堂研究科を修了し昭和19年興禅院住職となる。

翌年民生委員に選ばれ、推されて委員長を勤めるかたわら、翌21年、有志とはかって青壮年の村おこし組織「興郷会」を結成し会長となって、その後の社会教育・公民館活動の振興に先駆的役割を果たした。

同22年には由布院村会議員に当選、文教委員として活躍。また、戦後の公民館設置促進運動には社会教育委員として、その啓もう活動に走り回り、同25年8月に由布院町公民館が発足すると、初代副館長として草創期の公民館活動の大きな原動力となった。以来、教育行政の重要性を痛感し、同27年には公選制による教育委員に当選し二期を勤めた。

同27年12月に公民館長を退いて後、幾多の公職を努める中でも、公民館運営審議会委員。社会教育委員を歴任した。中でも公民館運営審議会委員は終生の仕事だと自他共に許すほどの熱意で取り組み、人づくりの拠点である公民館の施設々備の充実、職員の適正配置などに常に意を注いだ。

湯布院町の社会教育が年々振興発展を遂げて今日の地歩を固めたのも氏の功勞に負うところが大きい。

【町誌 湯布院〈別巻〉より転記】